

追悼 監物新一技術職員

硬組織形態学分野 大 島 勇 人

監物新一技術職員が、かねてより病氣療養中のところ、2024年10月19日にご逝去されました。享年65。お酒と煙草をこよなく愛し、皆から「監さん」の愛称で慕われた生涯でした。

監物さんは1987年4月、歯学部口腔解剖学第一講座（現・硬組織形態学分野）の技官として着任され、人体解剖学実習担当、そして透過型電子顕微鏡の試料作製を通して、2001年まで小澤英浩先生の研究室を支えられました。2002年に私が教授に着任してからは、2020年3月に60歳で定年を迎えられるまで、人体解剖学実習をはじめとする歯学部の教育、研究の技術基盤を担い、さらには研究機器の管理を一手に引き受けるなど、多岐にわたって私の研究室を支えてくださいました。本稿では、親しみを込めて「監さん」と呼ばせていた

できます。

私が大学院に進学したのが1987年ですので、監さんと私は同じ年に歯学部でキャリアをスタートさせたことになります。私が本分野に異動してからの20年近くは、直接私の研究を支えていただくことになりました。監さんは透過型電子顕微鏡の試料作製を得意とされ、その卓越した技術は研究の強力な支えとなったほか、パラフィン切片作製、 μ CTや電子線マイクロアナライザ（EPMA）の試料作製においても、研究室に大きく貢献してくださいました。監さんとの共著論文は、*J Dent Res*, *Cell Tissue Res*, *Histochem Cell Biol*, *J Histochem Cytochem*, *J Periodontol*などの著名な学術誌に掲載され、14編を数えます。



監さんは非常にざっくばらんで、天真爛漫、自由奔放な人柄でした。常に人生を楽しむその姿は研究室の雰囲気をも明るくしてくれましたが、一方で私と意見がぶつかることもしばしばありました。情に厚く、細やかな気遣いのできる方で、教授から大学院生まで誰とでも隔てなく接することができるため、私の共同研究者や大学院生たちともすぐに打ち解けておられました。その一方で、人前で話したり、注目されたりするのは苦手なようでした。写真を撮られるのを嫌がったため、研究室のアルバムの中から監さんの姿を探すのは一苦勞です。掲載した写真は、研究室の花見での一枚。いつもの、少しばかりかしこまった表情です(笑)。

監さんは、小澤英浩先生を心から尊敬し、慕っておられました。私が教授に就任した当初、「小澤先生は…でしたよ！」と、偉大な小澤先生を幾度となく引き合いに出されるのは、新米教授であつた私には少々辛い思い出です。小澤先生が研究室にお見えになった際に、監さんが実に生き生きとお世話をされている姿を見て、先生のことが

本当に好きだったのだなと改めて感じたものです。その小澤先生が2023年2月2日にご逝去され、監さんも後を追うかのように彼岸に旅立たれました。

昨今の大学は、人員削減の波のなかで、一人ひとりが抱える業務が増え、監さんのような自由な方を許容する余裕がなくなってしまったのかもしれない。定年間近には私とぶつかる回数も増え、私が自らの考えを押し通そうとするあまり、監さんはそんな私に愛想を尽かされたのか、定年を機に研究室を去ることになりました。監さんが研究室を去られて5年。仕事に追われ、物事が滞りがちな現在の状況を鑑みるに、監さんの貢献がいかに大きかったかを今更ながら痛感しております。「先生、俺のありがたみがやっと分かったかい？」と、天国で小澤先生と笑っている監さんの顔が目には浮かびます。「はい、参りました。今まで本当にありがとうございました。安らかに眠りください。」

合掌

